上

足の男は女中か組み敷かれて、両脚を空ざまにあげて、うめいて
ゐるのした。
女中はその時どうにかならぬ衝動にあさましい、息が挑んで
あたまを、男根に吸寄せられて、遠来の参詣者のやうに
其姿は、跪つた頭を男の陰の首に突込むと同時に、きあら
男根の頭を口に含んで両手で其の陰嚢もって胴体を揉みあがる
チユウ〳〵とろ出さ吸ふのです　と男は女中の一ぱいに開
かれた股の間に顔を埋めて、生殖からの烈しい交接に流れ
溢れ出た女の淫液を舐め廻しては陰核の廻りから小陰唇を
辿って膣孔まで、舌を伸ばして舐め上げ舐めまはすのでした
たまらぬ情熱の快味美にうめき悶えゝ二人とも、只てゐる
生女の二つか壊うすくなって、息はずみ、身体は熱し
うつすら淫部の返しに出したたか淫水を浴せぬうめき